

(別添4)

瀬戸内町1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

文部科学省が示している「令和7年度以降の学校におけるICT環境の整備方針及び学校のICT環境整備計画3か年計画」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められている。具体的には、1人1台端末の導入により、児童生徒1人ひとりの学習ニーズに応じた個別指導を推進する。また、主体的・対話的で深い学びを実現し、協働的な学びを通じて、コミュニケーション能力や問題解決能力の育成を図り、予測困難な時代を生き抜くために必要とされる資質・能力を養う。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のためには、ICT環境は必要不可欠な学習基盤であり。本町の教育行政の重点施策「学校教育の充実」の中でも「教育情報の推進」を目指していることから、1人1台端末の利活用を図っていききたい。

2 GIGA第1期の総括

第1期のGIGAスクール構想として本町は令和2年度に児童生徒、教職員に1人1台端末を整備してきた。また、全学校に高速通信ネットワークを整備し、Wi-Fi環境の充実を図りGoogle Workspaceなどの学習支援アプリを用いて、互いの考えを紹介したり、考えを整理・分類したりし、協働的な学びを進めている。その中で自分の考えを深化させたり、自他の考えの「よさ」に気づいたりする中で自己肯定感も向上させてきている。

さらに、1人1台端末を用いて、写真や動画で学びを残すことで、児童生徒が、既習学習を生かしながら、新たな学習課題に取り組む姿も見られる。

教職員への支援としては、オンライン会議やクラウドを活用した業務改善を推進している。また、運営支援としては、ICT支援員がネットワーク関係等のトラブルに随時対応し故障等に対しても補償や代替機での対応ができています。

3 1人1台端末の利活用方策

令和6年度から文部科学省の「リーディングDXスクール東京」に参加し、1人1台端末の標準仕様に含まれる汎用的なソフトウェアとクラウド環境を活用した授業実践を行っている。

本町では、1人1台端末の利活用を継続するため、端末の故障やバッテリーの寿命を考慮し、令和7年度に端末の更新を行う予定である。

AIドリルや学習支援アプリを活用し、児童生徒の学習履歴や理解度のデータを活用し「個別最適な学び」の実現を加速させ、自ら課題を見つけ、その解決に取り組む児童生徒を育成していく。また、クラウド上での共有ドキュメントやプレゼンテーションツールを活用して、編集や発表・交流を行うことで「協働的な学び」の充実を図っていく。

これらの取組みを推進していくことで、GIGAスクール構想第1期の成果に基づきながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の更なる充実を図っていく。